

福祉バスの停留所を新設します

新たに、藤三竹原店と竹原市民館前が福祉バスの停留所として利用できるようになります。

新規バス停利用開始日 5月8日(月)

福祉バスについて詳しくはこちら▼

問い合わせ

健康福祉課介護福祉係

☎ 22-7743



たけはらっこネウボラを ご利用ください

たけはらっこネウボラ(子育て世代包括支援センター)では、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を行っています。

母子健康手帳を交付する時に、全ての妊婦さんとゆっくり話をしたり、妊娠中期と妊娠後期は、電話や面接で、出産や子育てについて不安なことを一緒に考えたり、利用できるサービスを説明したりしています。

産前産後のからだのこと、心のこと、育児のことなど心配なことがあれば、いつでもご相談ください。助産師、栄養士や保健師が安心して出産・子育てができるように妊娠期からサポートします。

※ネウボラとは、
フィンランド語で
「アドバイスの場」
を意味します。



問い合わせ

たけはらっこネウボラ(保健センター内)

☎ 22-7157

市立こども園・保育所に 絵本の寄贈を受けました

3月に中国労働金庫西条支店推進委員会から市立こども園・保育所4か所に多くの絵本が寄贈されました。「地域子どもたちが健やかに育ってほしい」と贈られた絵本を園児たちが夢中になって読んだり、友だちと会話をしながら楽しんだりしています。

問い合わせ

社会福祉課子ども福祉係

☎ 22-7742

【連載】北前船日本遺産～構成文化財の紹介①～



JAPAN HERITAGE
日本遺産

竹原市は、令和元年に日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の認定を受けました。日本遺産とは、地域の歴史的魅力などを通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。竹原や忠海に寄港した北前船は、江戸時代中頃から明治30年代まで、大阪と北海道を日本海回りで往来し、寄港地で積荷を売り買いしました。

今月号から、北前船日本遺産に関する竹原市内の文化財や、同じく認定を受けている中国・四国地方の自治体を紹介していきます。第1回は「竹原市竹原地区伝統的建造物群保存地区」を紹介します。

竹原の町並みは、全国で唯一「製塩町」として国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。江戸時代前半から始まった製塩業を基盤に栄えた竹原には、北前船の商人が塩の買い付けに訪れ、遠く東北地方にも運ばれました。竹原の町人は、製塩業以外にも酒造業、廻船業などを経営し、商売でなした財産を自分の家に注ぎ、良材で技巧を凝らした多くの邸宅を建てたのです。

竹原の町家の特徴は、本瓦葺の屋根や灰色漆喰の壁です。また、格子のデザインなど細部にまで意匠が凝らされ、切妻や入母屋といった様々な屋根が入り混じり、町並みの景観に変化を与えています。

北前船で様々な地域とつながった竹原の町は、まさに歴史を物語る貴重な文化財です。この町並みを未来に継承していくため、保存・活用の取組が続けられています。

問い合わせ 文化生涯学習課文化財保護係

☎ 22-2328

